

O-15 当院における急性呼吸不全・慢性呼吸不全急性増悪に対する非侵襲的陽圧呼吸 (NIPPV) の検討

佐賀県立病院好生館 救命救急センター

嬉野 紀夫、藤田 尚宏、平原 健司、杉原 充

【目的】急性呼吸不全・慢性呼吸不全急性増悪における NIPPV の有用性・意義について検討した。

【対象と方法】1998 年 2 月から 2001 年 2 月までに当院救命救急センターにて NIPPV を施行した 30 症例において臨床症状、血液ガス分析による PaO_2 ・ PaCO_2 の変化 (ΔPaO_2 、 ΔPaCO_2)、呼吸状態安定までの時間、至適 IPAP/EPAP 圧、短期予後などについて比較検討した。症例の内訳は急性呼吸不全 18 症例 (心不全 7 例・心不全+肺水腫 7 例・肺水腫 4 例、男性 4 例・女性 14 例、平均年齢 74.6 歳)、慢性呼吸不全急性増悪 12 症例 (肺気腫症 11 例・気管支喘息重積発作 1 例、男性 10 例・女性 1 例、平均年齢 73.4 歳) であった。

【結果】急性呼吸不全については 16 例が NIPPV より離脱し $\Delta\text{PaO}_2+97.9\text{Torr}$ 、 Δ

$\text{PaCO}_2-1.69\text{Torr}$ 、呼吸状態安定までの時間 57.27min、至適 IPAP/EPAP 圧→

9.0/4.8mmHg。慢性呼吸不全急性増悪については 11 例が NIPPV より離脱し Δ

$\text{PaO}_2+51.84\text{Torr}$ 、 $\Delta\text{PaCO}_2-18.87\text{Torr}$ 、呼吸状態安定までの時間 209.42min、至適 IPAP/EPAP 圧→10.9/4.7mmHg であった。

【考察と結語】急性呼吸不全に対する NIPPV 療法は、慢性呼吸不全急性増悪に対する NIPPV 療法と比較して ΔPaO_2 は大きく、 ΔPaCO_2 は小さい結果となった。また、呼吸状態安定までの時間も短期間であった。臨床経過、短期予後等を含めて考察すると急性呼吸不全・慢性呼吸不全急性増悪共に NIPPV 療法は有用であると思われる。